

令和元年度

事業所名： グループホーム いちょうの木

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム いちょうの木		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字十日市85番地		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いちょうの木は安心して落ち着いて過ごせる環境、家庭に近い自然体での生活を提供しています。毎日の買い物や近くの温泉まで散歩、利用者様全員でのドライブ・外食、思いでカフェ等外出の機会を多く設け、施設内だけではなく地域に出向き繋がりを持ちながら、楽しみが持てるよう努めています。施設内の畑で育てた野菜を収穫し食事で提供したり、苑内の柿で干し柿作り等を楽しんでいます。またグループ施設の託児所の子供たちとの交流も図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0370400178-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用のホールでは、利用者がそれぞれの居場所で寛いでいる。笑顔、大きな声で会話し、賑やかである。朝起床したときから、就寝時間まで、ホールで過ごしている。日々の生活では、朝カーテンを開ける、夕方カーテンを閉める、ホールをモップ掛けする、洗濯物を干す、乾き具合を確認する、取り入れる、畳む、庭や畑の野菜に水やりする等々、利用者一人一人が役割を持って生き活きとしている。保育園児との交流も継続している。運営推進会議には、地区の民生委員が多く参加し、ご近所さんも委員になっており協力を惜しまない。外出を重点目標とし、花見、紅葉、季節のドライブ、外食、思い出カフェ、随時の買い物等、支援している。車椅子の利用者を含めて全員での外出では、利用者が「あれ誰がいない」と気遣っている。外出は、地域のつながりを生み出している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム いちよの木

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティング、会議等で話し合い確認し合っている。事業所の理念は常に見やすい場所に掲示に、意識し取り組めるよう心がけています。	開所時からの理念「その人の望む生活、その人らしさを大切にしたい関わりを実践します。」をミーティングや会議で確認し、職員は意識して取り組んでいる。利用者は、日々の生活の中で自然に個々の役割を持ち、生き生きと生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、月1回の思い出カフェ、地域のお祭りの参加などで交流しています。	地域の佐倉河祭りに、法人が大船渡のさんまを提供することが恒例となっており、地域の方々の楽しみになっている。伝承センターでの認知症普及のための「思い出カフェ」に参加し、地域の方々と交流している。事業所が子ども110番の駆込み所となっており、佐倉河小学校から感謝状を頂く等、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、在宅支援センター主催の家族介護者教室、認知症カフェにて民生委員の参加を得ています。また以前は佐倉河地区徘徊模擬訓練を包括・地域の方と協力して行っていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市の職員の参加により、実践状況を見て頂き、ご意見を頂きながらサービスが向上出来るよう運営に活かしています。	運営推進会議には、ご近所さん(普段からお付き合いのある)、区長、民生委員、市担当課職員、駐在所が参加し、利用者の状況や行事等の活動報告に理解を頂いている。多くの民生委員(時に8名越える)の参加がある。委員は地域とともに事業所が末永く運営されていくことを期待している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には民生委員、市の職員の参加により、実績状況を診て頂き、ご意見を頂いています。	市担当課(長寿社会課)職員が運営推進会議に参加しており、その都度、介護保険改定等に係る情報や指導を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、部署内で身体拘束の勉強会を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。また玄関の施錠に関しても行っていません。	法人の各事業所の管理者により、身体拘束廃止委員会を3ヵ月毎に開催し、指針も作成している。月1回の職員会議で、スピーチロック等のテーマで職員の研修を行っている。現在、センサー等を使用している利用者はいない。グループホーム関係者の協会主催の研修会で身体拘束に関する研修を受講している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内定例会議、部署会議等で話し合う機会を設けて実践に繋げています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がいて、研修会等で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項で説明し理解を頂いています。分かりやすい説明を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、また運営推進会議やご家族来苑時に意見・要望を聞く機会を設けています。また、介護相談員の方も来苑して頂いています。	これまで、意見箱を活用されたことはない。家族の面会時や介護計画の説明時には、意見や要望を聴くように努めている。家族からは、独り暮らしの当時より健康になったとか、見て頂きありがたい等、感謝の言葉を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや部署会議、全体会議等で意見や提案の機会を設け実践しています。	職員の提案で、浴室脱衣所の目隠しのためのスクリーンや流動食用のミキサー購入の提案が具体化されている。最近では、カラオケ機器が導入され、利用者の楽しみとなっている。会議のみならず、日々の会話を通じて提案された利用者のケアにかかる意見や提案も介護等の見直しに役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前はキャリアアップ制度に取り組んでいましたが、現在は行っていません。シフト作成時には希望休を優先しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得、法人内外の研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会定例会に参加し交流を図り、交換研修に参加し、他事業所の取り組みを知ることによりサービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み後、ご本人と会い心身の状態把握に努め、不安等にも耳を傾け話しやすい環境づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時、来苑された際には不安や要望等をお聞きし、安心し納得して頂けるよう説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族及び担当ケアマネから情報を収集し、ニーズを把握しケアプランに活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護について職員は共通理解しており、共に暮らすことから生じる多くの学びを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担や不安・ストレスが軽減され、本人を受容することができるよう認知症の説明を行ったり、病院受診や馴染みの場所へ行けるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や病院等、ご家族の協力のもと馴染みの関係が続いている方もいます。ほとんどの利用者様が買い物に出掛けています。地元のスーパーへ行く事で昔の知り合いに会い、立ち話を楽しまれることもあります。	毎日の買い物に率先して手を上げる利用者もあり、一緒にスーパーに行き、昔馴染みの方と会って立ち話をしている。時には、近所の方が来訪し、話していくこともある。家族の付添いで、馴染みの美容院に行く利用者のほか、訪問理容を利用し理容師と新たな馴染みの関係になっている利用者と、様々である。お米は「思い出カフェ」に係わっている地元の方から購入している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これまで地域での活動や趣味を楽しまれてきた方が多く、皆さんでのレクリエーションを好まれます。レクリエーションを行うことにより、他利用者様同士がコミュニケーションを取りやすくなり、その人となりを知ることで協力しあう関係ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は定期的にお見舞いし、亡くなった時には職員がお別れに行っています。ご家族から電話で相談を受けた際には相談にのっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際し、ご本人に必ず会い、お話しをし、さらにご家族に入居時調査票を記入して頂いています。ケアプランを作成する際に本人にアセスメントし思いや意向の把握に努めています。	言葉で表現できない利用者とは、日々の表情やしぐさなどで感じ取るようにし、家族からも情報を得ている。1対1での入浴介助時には、ゆったりした環境で本音を聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時調査票の記入やご本人・ご家族に生活歴について詳しく聞き取りをし、利用者様の言動の理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、利用者様の様子や発する言葉等、気づきを大切に職員間で話し合って意見を出し合い検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い、毎日のミーティングや部署会議にて、現在の状態を報告し合い、意見を出し合い検討しています。	介護計画の見直しは3ヵ月毎とし、業務日誌、ケアチェック表、ケース記録、毎日のミーティング記録を活用して、管理者(介護支援専門員)、居室担当者、職員全員で検討し作成している。日々の生活で気づいたことは、随時検討しケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援記録にどのような支援を行ったのか、どのような反応があったか等の記入がとても少なく活かせる記録となっていないのが現状です。しかし、独自でケアチェック表を作成し職員間で情報共有しながら介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者様の状態把握に努め、柔軟なサービス提供が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出掛けたり、敬老会には託児所の子供たちがお祝いに来てくれたり交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際しかかりつけ医を変えてもらったことはありませんが、緊急時には連携医療機関であるまごころ病院の協力を頂いています。また往診にも来て頂いています。	訪問診療受診2名、他は家族の同行を原則とするかかりつけ医を受診している。家族が同行出来ない場合には、職員が対応している。皮膚科の医師の往診も利用している。家族同行での受診時は、受診状況等の報告をいただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師の健康チェックがあり、一人ひとりの現状を伝えていきます。体調の変化について常に相談し、指示・アドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、生活の様子を情報提供しています。また、病院に足を運び、経過の観察に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前は、ご家族からの要望もあり実施に向けて取り組む予定でしたが、実際にはターミナルの実施には至っておりません。	看取りは、実施しないこととし、入居時に家族に重度化や終末期の対応について説明している。職員は、今後の看取りの対応に備え、ターミナルケアについて勉強している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のバイタルチェックが行えるようにしています。訪看さんと連携を取りながら急変時には指示を仰ぐことができます。以前はAEDや心肺蘇生の研修も行っていました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練や夜間の火災想定訓練を設けている。消防署の指導の元に行っています。	消防署立会いで、年2回(6月実施済み・12月夜間想定)の避難訓練を実施している。台風19号では、法人の指示で系列の事業所に避難しており、その対応等を振り返り、今後備えて課題等をまとめることとしている。避難訓練には、運営推進会議委員の参加・協力を予定している。	避難経路に砂利道があり、車椅子の利用者もいることから、必要な措置を講ずることが望まれます。数年前には、夜間の避難訓練を実施しておりますが、事業所独自の取り組みとして、夜間(暗さの体験)の訓練を検討することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりどんな誇り・プライバシーを気にされているかを把握し、情報を職員皆で共有しています。 出勤時の挨拶や感謝の気持ちで「ありがとう」「助かります」と一人ひとりに声掛けしています。	利用者一人一人の尊厳を傷つける言葉や行動を把握し、職員間で共有している。出勤時には、利用者一人一人に挨拶し、表情や言葉を観察して状態を把握している。食器拭きや洗濯干しのお手伝いをしてくれた際には、必ず感謝の声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をして頂くようにしていますが、出来ない方には、会話等の中から想いを感じとれるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活を決めずに毎朝一人ひとりに声掛け、その日の希望がないか聞いて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝本人に整髪や髭剃りをして頂いています。着替えの際は本人にどれを着るか選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にお茶入れや盛り付けを手伝って頂いています。食器拭きや米とぎ等、片付けは利用者様が進んで行っています。	冷蔵庫にある食材を確認し、利用者の希望も取り入れて献立を決め、職員が調理している。利用者は、米とぎ、盛り付け、茶碗拭きなどを手伝っているが、調理に係わることは少なくなっている。長テーブルに対面で座り、職員と一緒に食事をしている。ミキサー食の利用者が1名で、外食の際にもミキサーを持参し、お店の協力を得てその場で食事介助をしている。敬老会、正月、ひな祭り等の行事食を利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて増減の確認、毎食の食事を記録し状態把握に努めています。栄養バランスを考えながら、塩分・糖質も出来るだけ少ない目に調整するよう努力し、食事を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に準備・声掛けを行っています。必要に応じて介助・仕上げ磨きを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの利用者様が自立していますが、排泄パターンを把握し定期的な声掛けをしている方もいます。	夜間のポータブルトイレ使用1名、布パンツ5名、おむつ1名、リハビリパンツ3名で、排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。失禁等で清潔にしたい場合、毎日浴室の準備をしているので、さりげなく誘導し清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食材にはきのこを多めに取り入れ、毎朝のヨーグルト、昼にはヤクルトを提供しています。水分量・運動にて予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている利用者様が多く、1日の楽しみになっている方もいます。入浴を嫌がる方へもタイミングや気の合う職員が対応するようにしています。	浴室は毎日準備している。利用者は、週2、3回入浴できている。異性介助に問題は無い。風呂を嫌がる利用者には、CDを掛けたり、職員の誘導で嫌いといいつながりながらも入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、ホールや居室にて休息を取りながら、日中の運動や活動等で夜間は皆さん良く眠れています。一人ひとりの生活リズムに合わせて、安心して気持ち良く眠れるよう換気や空調設定にも気を配り支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬を保管し、薬は写真付のケースにセッティングしています。服薬する際も複数の職員でダブルチェックし、本人にも服薬時確認して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに出来る事の役割を持って頂き支援しています。皆さんでのレク等を楽しまれ、気心の知れた仲間となり、新しく入居された方も早々に馴染まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑内の畑や近所の温泉までの散歩、思い出カフェ、買い物、ドライブや外食等、皆さんが戸外に出掛けられるように支援しています。 またご家族さんに協力を頂き病院受診や美容室、外食と出掛けられています。	散歩がてら近くの温泉でのお茶やドライブ時の外食、散歩、祭り見物、畑の作業、買い物、思い出カフェ、パン屋での買い物等々、外出を多くするよう支援している。家族と一緒に、美容院や病院に出掛け、外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は施設で管理し、金銭出納帳にてご家族に確認して頂いています。 買い物に出掛けた際、品物の値段等の会話にて金銭の認識が薄れないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事はほとんどありませんが、希望があれば支援します。 ご家族からの電話や当事業所からの連絡の際、ご本人に取り次ぎお話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールが落ち着くのか、居室で休まれず、ソファでうたた寝をしたりしながら過ごす方が多いです。	共有のホールは、高い天井から陽が差し込み、開放感がある。朝は、高い窓のカーテンを開ける係、夕には閉める係の利用者がいる。午前は全員で風船バレー、笑顔、笑い声と、ホールは賑やかだ。食事時はテーブル拭き、配膳、昼食後は後片付け等、利用者は笑顔で役割を果たしている。午後は、洗濯物を干す、塗り絵、ソファに寛ぐなど思い思いに、自分の居場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではそれぞれ自由に過ごされており、テレビ前のソファでは気の合った方でおしゃべりする等、楽しまれている様子です。一人になりたい時には居室で過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物ではなく馴染みの物を持って来て頂くようにしています。	居室の入り口には、利用者が、赤、緑などの色で表示されている。室内は、利用者が持ち込んだベッド、小箆筒、書棚、小説、家族の写真や自分の作品が飾られている。居室は、掃除が行き届き、整理整頓されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物に収納スペースがなく、通路にタンスや物があるので、車いすの方の介助や歩行介助するには手狭な環境となっているのが現状ですが、お一人おひとりに合わせて安全で安心できる環境を作り、自立した生活が送れるよう支援しています。		